

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒個々に応じた学習指導による基礎的・基本的な学力の習得と定着を図る。 ②社会を生き抜く力の育成を目指し、『学びなおし』の実現に向けた『わかりやすい授業』の実践を推進する。	①教科ごと適切な時期に評価を行い、成果を実感させる。 ①T Tによる学習環境を効果的に活用した授業展開を実践する。 ②I C T機器等を活用した授業展開を研究し、生徒の『学びなおし』につながる授業改善を行う。	①科目の単元ごとに評価方法を工夫して学力習得につながる評価を実施する。 ①授業評価等を利用し、生徒の学習状況を的確に把握する。 ②I C T機器等を活用し『わかりやすい授業』を展開する。 ②教員相互の授業見学・研究を実施する。	①学習内容の理解度や達成度について、自己評価が向上したか。 ①生徒が授業において「満足感や充実感」を得られたか。 ②『学びなおし』や『わかりやすい授業』を実感できたか。 ②授業見学・研究を実施し成果の共有がされたか。	①授業評価の結果を見ると、「あらたにできることが増えた」と回答している生徒が多い。 ①ほとんどの教科でI C Tを活用できた。学習内容の理解に役立った。 ②数学と英語において、習熟度別学習を実施した。義務教育段階での学習も必要に応じて扱うことができた。 ②教員相互の授業見学を実施し、他教科での取り組みを参考にする機会が作れた。	①次年度も、各学期に中間評価を行い、自分の学習を振り返る機会を設ける。 ①大型モニターが設置される予定であるので、さらにI C Tの活用を進める。 ②『学びなおし』とともに、日本語に課題のある生徒への対応を進めていく。 ②他校での実践例も参考にできるように、研究授業などにも参加する。	①I C Tの活用により、生徒の基礎学力の定着につながり評価できる。ジャムボードの活用などは生徒の意見の共有化などに有用である。上手く活用して欲しい。 ②T Tによる指導は生徒の学習意欲の持続等に効果的であった。公開授業の見学にて、T Tの授業展開によりきめ細やかな指導など評価できる。	①科目の単元ごとに評価方法を考案し、基礎的・基本的な学力の習得につながる評価を実施したことで、新たな発見を得られた生徒の回答が増加した。また、授業評価の分析により、生徒の学習状況を的確に把握することができた。 ①I C T機器の利活用により、学習内容の理解向上と視覚的な支援が有効な生徒に効果的な学習指導に結びつけた。今後はI C T機器の有効的な活用が必要である。 ②習熟度別学習やT Tにより、必要に応じて義務教育段階での学習を導入し、『学びなおし』や『わかりやすい授業』を実践できた。学び直しとともに、日本語に課題のある生徒への支援体制の整備が必要である。	①科目の単元ごとに評価方法と基礎的・基本的な学力の習得の関連性を更に見直し、生徒自身が学習内容を振り返る場面を実施し、中間評価の充実を目指す。 ①学習効果の充実を図るためにI C T機器を活用する場面に応じたハードやソフトを適切に選択し、積極的・効果的に活用する。 ②生徒一人ひとりの学習ペースやニーズに応じた指導により『学びなおし』の効果を高める。日本語に課題にある生徒に対して補習時間の設定を組織的に検討する。
2	生徒指導・支援	①生徒一人ひとりが抱える課題や教育的ニーズを把握し、生徒に寄り添った支援を組織的に進める。 ②学校行事への主体的な活動を推進し自己効力感を高め、他者との協働により、心の豊かさや規範意識の醸成を図る。	①全職員にて生徒の課題や教育的ニーズを的確に把握し、個に応じた指導と支援が一体化した、寄り添った支援を進める。 ②学校行事等の活動を通して生徒の主体性と規範意識を育み、達成感を得られる支援を整える。	①情報共有会等で、生徒個々の状況や課題、ニーズなどの情報を共有し、組織として迅速かつ適切な支援を多角的に行う。 ②学校行事等で生徒の主体的な運営を支援する。積極的な学校行事の参加により生徒の自己効力感を高める。 ②教職員による積極的な「挨拶」や「声掛け」を推奨し、生徒の基本的生活習慣の確立を目指す。	①情報共有会等を活用し、生徒に寄り添った個別支援や、S C ・S S W、外部機関との連携による支援を行えたか。 ②生徒が主体的に学校行事等の活動に参画できたか。活動等を通して達成感を得ることができたか。 ②教職員や生徒相互間での積極的な挨拶ができるようになったか。	①定期的に生徒の情報共有会を行い、問題行動の未然防止等に情報を活用することができた。 ①生徒に寄り添った個別支援や、S C ・S S W、外部機関との連携により、支援を的確に行えた。 ②生徒会を中心に学校行事や委員会活動等を企画・運営し、生徒が主体的かつ協働的に活動に参画できた。 ②生徒は学校行事や部活動等に主体的かつ積極的に関わった結果、自己効力感や達成感を得ることができた。 ②教職員や生徒相互間で積極的に挨拶を行うことができた。	①一人ひとりの生徒との信頼関係を築くために、生徒の言動に注意して、丁寧に指導すること、よりきめ細かく対応することで問題行動の未然防止に務める。 ①生徒の家庭環境を的確に把握し、引き続き校内の生徒支援体制及び外部との連携を充実させ迅速な対応を行う。 ②本校に入学する生徒の社会性向上のため、今後学校行事や委員会活動、部活動等を大切にし、自己肯定感・自己有用感を醸成し、自己効力感を高め、他者を尊重する意識の向上を図る。 ②引き続き、教職員による積極的な「挨拶」や「声掛け」を心掛け、生徒の基本的生活習慣の確立を目指す。	①生徒個々の情報共有により、個別支援体制を構築しているのは評価できる。課題も複雑で多岐にわたっているなど、中学校でも不登校となるなど弱い生徒が増加している。そういった生徒への対応に苦慮している。 ①外国につながるのある生徒に対して、外部連携機関との定期的なケース会議により適切な支援を行うことができた。 ②生徒会行事への生徒参加率が高く、生徒主体の運営も軌道にのっている。生徒の自己効力感を高めることにつながった。	①生徒一人ひとりの多様な背景の理解を深めるとともに信頼関係を構築する寄り添った支援を向上させる。また、外国につながるのある生徒に対しての個別支援等を具体的に検討する。 ①外部機関との連携をさらに強化し、支援が必要な生徒に対して、専門的な知識援助を求め効果的な支援を推進する。 ②社会性向上を目指し、学校行事や委員会活動内容の充実とソーシャルスキルトレーニングを計画する。	

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりのキャリア発達段階に応じたキャリア教育を推進する。 ②個々の進路実現を組織的に支援する指導体制を整備する。	①進路実現に向け定時制独自のキャリアパスポートを活用し進路プログラムを充実させる。 ②希望進路実現に向け、個々に応じた進路指導を行う。	①キャリア活動を有効活用し、進路情報を収集させ選択の幅を広げ職業意識の向上を目指す。 ②進路ガイダンスの充実と外部機関の進路アドバイスを活用する。	①キャリアパスポートから将来設計を可視化できたか。 ②自身の将来にむけた進路選択を見出すことができたか。 ②ガイダンスにより自身の進路意識に変化が生じたか。	①キャリアパスポートなどを活用しながら、自分の進路について考えることができた。 ②5月に全学年で進路に関するガイダンスを行った。学年ごとに目標を決めて取り組んだ。 ②卒業生13名、全員が自分の希望する進路に進むことができた。	①キャリアパスポートは学年ごとに作成しているため、学校として標準版を作成できるとよい。 ②SPIなどの問題に取り組む機会を増やす。 ②夏休みのサマースクールで、キャリアの講座を有効活用する。	②卒業生すべての生徒が希望進路に決定したこと、一般受験にて大学に進学したことは評価できる。	①キャリアパスポートを活用したことで、段階的なキャリア教育を推進できた。外国につながるのある生徒へのキャリア支援に苦慮している。来年度は外国につながるのある生徒の進路を決定につなげることが課題である。 ②卒業生すべての生徒が希望進路に決定した。一般受験希望者に対して、模試試験など適切な指導を行い、希望大学に進学できた。	①キャリアパスポートを効果的に活用し、具体的な進路選択やキャリアプランニングを重視し、社会的・職業的自立にむけた取組を推進する。 ②将来の就職活動において、基礎学力や論理的思考の育成を目指し、SPIを活用し進路選択肢を広げる取組を推進する。
4	地域等との協働	①地域社会やPTAと連携し、地域に信頼される学校づくりを推進する。 ②生徒の自己効力感を高める活動等、学校情報を積極的に発信し、学校広報活動を推進する。	①地域社会やPTAとの協働的な活動を推進し、連携を深める。 ②学校行事や学校生活等の公開を積極的に計画し、魅力ある学校を外部に発信等広報活動を充実する。	①地域社会やPTAとの連携を密にして、活動の実施形態などを検討し活動に取り組む。 ②学校行事や学校生活等の公開を積極的に計画し、魅力ある学校を外部に発信等広報活動を充実する。	①地域社会やPTAとの連携による活動を実施できたか。 ②適切な時期に中学校訪問が実施できたか。 ②外部への情報発信やホームページ更新回数が増加したか。	①文化祭やマラソン大会等の行事においてPTAと連携した取組を行うことができた。 ①地域のごみ拾いや追浜駅前広場の花のプランター設置等を通して、地域との連携を深め、地域に貢献する活動を行うことができた。	①役員不足は深刻な課題であるが、様々な機会を通して会員との意思疎通を図るとともに、PTA活動の精選、取組みの充実に取り組む。 ①校内外の取組を充実させ、保護者や地域の方々との連携や外部資源の活用を進め、地域連携を強化する。	①少人数ではあるが、PTA活動の充実に向け取組みは評価できる。 ①地域貢献活動は地域に活性化を与えている。地域の小中学生も活動に興味を示していたことは評価できる。	①PTAと教職員が連携して、活動を充実させた。委員会等の実施もリモートを活用して実施するなど工夫を凝らした。役員不足など組織の在り方も含めて検討が必要である。 ②地域清掃や地域貢献活動は9割以上の生徒が参加し、地域との連携を深める活動ができた。 ②中学生の進路決定時期に中学校訪問を全職員で対応できた。	①来年度以降の活動内容を精査し、少人数でも活動できる内容の工夫を検討するとともにPTA活動の理解を深めるPR活動を進める。 ②継続的な地域社会とのつながりを進め、関係機関との連携を密にする調整と活動評価を活かす方法を検討する。
5	学校管理 学校運営	①安全・安心して生活できる環境を確立する。 ②コンプライアンス意識を高め、不祥事防止に取り組み、ライフワークバランスの充実を目指す働き方改革を推進する。	①安全・安心して生活できる環境を整える。 ②不祥事防止に向けた取組を組織的に行い、不祥事防止に向けた意識啓発を図る。	①生徒の安全が確保されるよう防災訓練を通して、防災意識向上を目指す。 ②教職員が主体となる不祥事防止研修会を実施し、職員の意識の向上を目指す。	①実災害に対応した防災訓練を実施し、生徒の防災意識が向上したか。 ②不祥事防止会議と研修が連携した取組を行い、職員の意識が向上したか。	①大規模災害から自らの判断で自らの安全を確保できるよう、資料や映像、クイズ等を活用した防災訓練を実施し、防災意識の向上を図った。 ①防災備蓄品の使用期限と個数の確認を行い、次年度の購入計画を検討した。	①地震や津波、大雨など大規模災害時における、避難場所の確認、対応の仕方等について、防災訓練等の防災教育を通して意識や対応力を高める取組を継続的に行っている。 ①防災備蓄品の管理を全日制と連絡を取り確実にを行うとともに備品の充実を図っていく。	①地震や津波など大規模災害時における、避難場所の確認や訓練は評価できる。地域と連携した防災訓練も必要を感じる。	①大規模災害を想定した訓練を実施できた。地域のハザードマップを活用し、自らの判断により各災害の際の判断を意識させる指導を行った。 ②定期的な不祥事防止研修会により、教職員全体でコンプライアンス意識を高める取組を推進した。	①防災意識を高める訓練等を継続させ、夜間時の避難場所への避難や対応方法など実訓練を通じて対応力を身につけさせる指導をする。 ②不祥事事案に対して、様々な事例を基に各研修会を実施し不祥事防止に向けた取組と職場環境を構築する。